

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 1962年ニューギニア日食観測隊のスライド272枚を収蔵**

アーカイブ新聞も1000号近くなると、過去にどんな記事を書いたかはすべて記憶していない。アーカイブ新聞を「ニューギニア日食」で検索すると、7、14、21、101、503、606号がヒットした。第7号はニューギニア日食記録映画の発見記事、第14号はニューギニア日食記録映画DVD完成記事、第21号はスワロフ島海図発見記事の中に記載がある、第101号には、過去の日食観測隊の中に記述があり。第604号にはペルー日食記事の中に記述があった。

今回、1962年のニューギニア日食観測隊員の1人であった日江井名誉教授からニューギニア日食時のスライド272枚の提供を受けた。

1962(昭和37) /2/5 ニューギニアは、太陽観測所のホームページによれば、

観測隊員：斉藤国治、秦茂、日江井栄二郎、平山淳、中村強

観測地：ニューギニア島ラエ

結果：閃光スペクトル、偏光の写真測光、大気光輝線の強度測定

筆者が整備した太陽塔望遠鏡地下室には、ニューギニア日食に使われたカメラを収蔵・展示してある(写真1)。

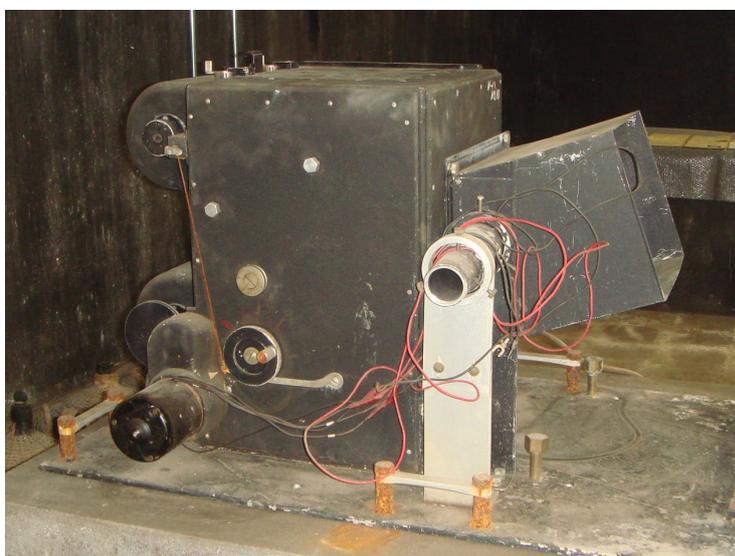


写真1 1962年のニューギニア日食観測に使われた観測装置

太陽塔望遠鏡の地下室は、部屋全体がアインシュタインの一般相対性原理の検証のために建設された分解能220000の高分散分光器である。現在は、ここが分光器室であったことから2008年に発足した天文情報センターアーカイブ室の手によって、国立天文台に残された分光器を集めて分光器資料館になっている。しかし、太陽塔望遠鏡(アインシュタイン

塔) という呼称は捨てがたく、分光器資料館という名称にはしなかったが、国立天文台に整備された博物館の一つである。

日江井名誉教授から提供を受けた 272 枚のスライドは、ハーフサイズのカラー版で、スライドの枠の接着剤が劣化しており、もはや枠から外れたり、凸面になったりしているが、工夫してデジタルデータとして取り込んだ。これらのスライドには、観測の様子や、観測機材は全く写っていない。多くは現地の風景、船の様子、現地の人たちの様子などが写ったものである。まずは、272 枚のサムネイル画像を載せる。





43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



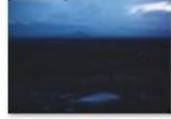
101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



183



184



185



186



187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209



210



211



212



213



214



215



216



217



218



219



220



221



222



223



224



225



226



227



228



229



230



231



232



233



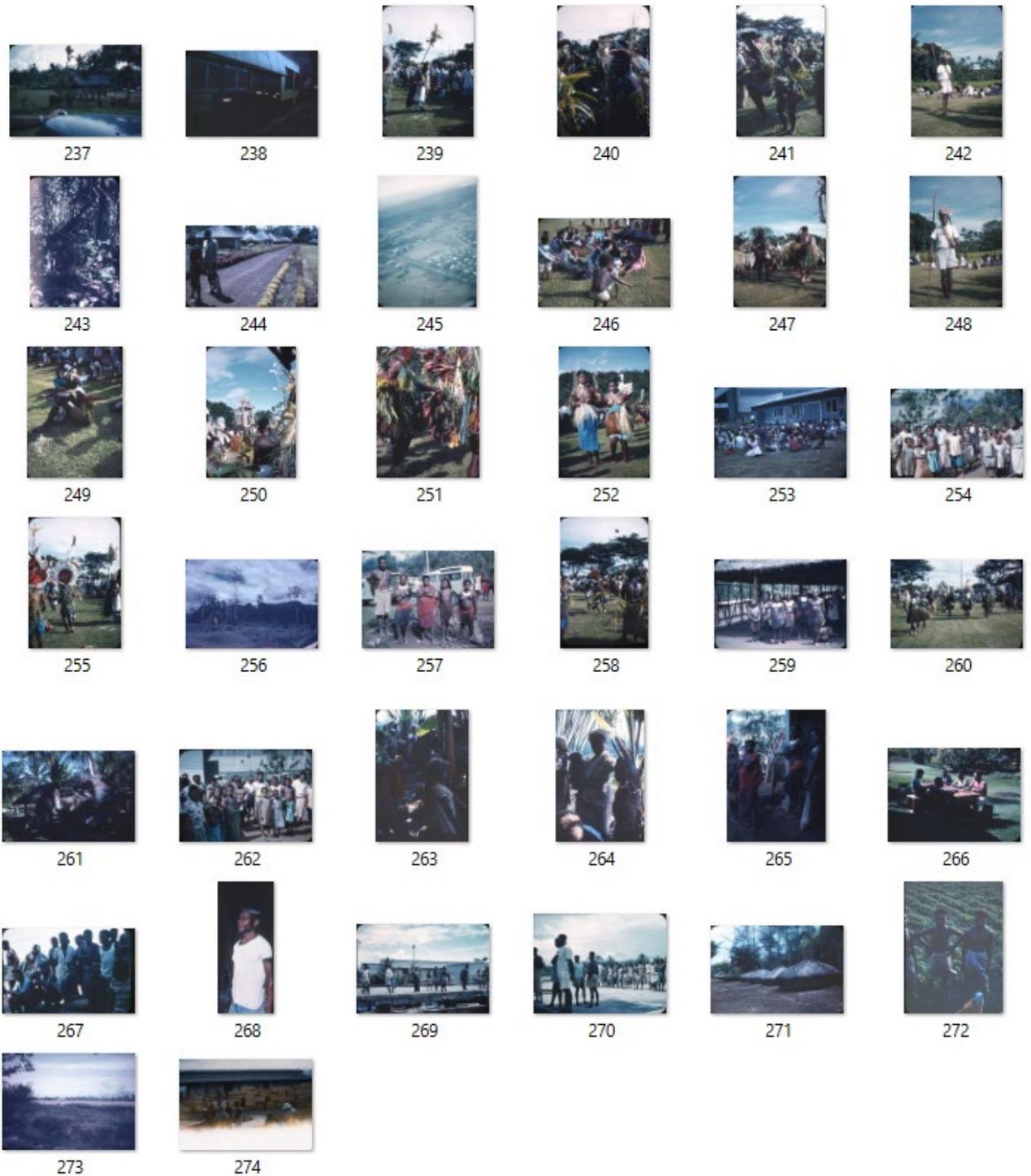
234



235



236



サムネイル版を作成して、番号付けにミスがあることに気が付いた。全部で 272 枚である。番号 134 番、150 番を欠番となっている

観測隊員は記録によれば斉藤国治、秦茂、日江井栄二郎、平山淳、中村強の 5 人であるが、スライドに写っている秦茂、日江井栄二郎、平山淳の 3 人と、海上保安庁水路部の山

崎昭の4人である(写真1)。斎藤国治、中村強のお2人ともよく知った方だが、この272枚のスライドに現れてこない。

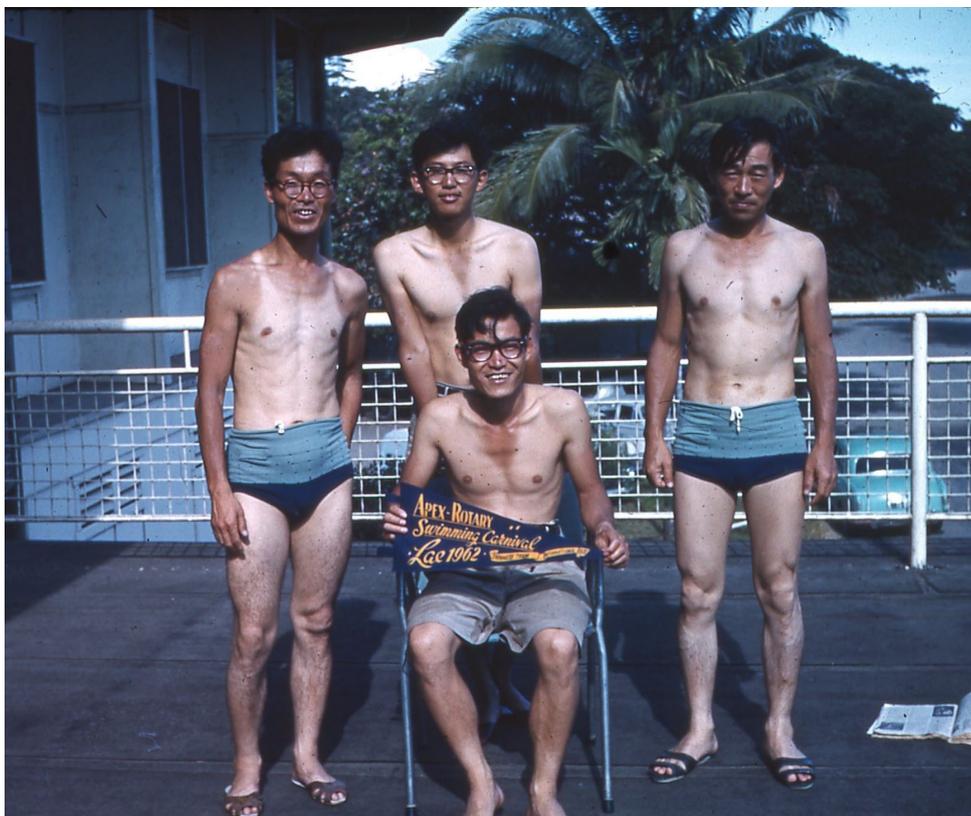


写真1 前列：日江井栄二郎、後列左から秦 茂、平山淳、山崎昭

まだ戦後の痕跡が濃い時代の写真で、ニューギニア・ラエは激戦地で日本軍の軍艦が傾いて座礁している写真がある(写真2、写真3)。



写真2



写真3

また、戦没者を供養する観測隊関係者の写真もある。戦後まだ十分な遺骨収集などができていなかった時代だったのであろう。どのような状況でこの写真が撮られたか知れないが、遺骨が発見された現場での供養であったかもしれない(写真4、5、6)。

観測隊を運んだ船の写真もある、「かごしま丸」と読める（写真7、8、9）。この日食より4年前のスワロフ日食では、北海道大学水産学部附属練習船「おしよろ丸」が使われたが、今回は、鹿児島大学水産学部が所有する練習船「かごしま丸」が使われたようだ。



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9

観測隊の様子を見る現地の人々の写真（写真10）、写真11は現地の人々の住居の写真であらうか？隔世の感のある写真である。



写真10



写真11

現地の人たちの民族衣装をまとった歓迎の行事のような写真もある(写真12、13)。



写真 12



写真 13

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp